

令和4年度 授業改善推進プランのねらい

昭島市立梓島第三小学校

・児童の興味・関心を高め、理解を深めることにより各教科のねらいを達成し、学力向上を図る。

授業改善推進プランのポイント

・基礎的・基本的な内容の定着 ・問題解決の過程を重視し、資質・能力を高める授業 ・ICT機器の有効活用

授業改善推進プラン 各学年の取り組み(学年にあった教科のねらいを達成するために)

	国語		算数	
1年	<p>【単元名】 1学期「うみのかくれんぼ」説明文 2学期「じどう車くらべ」説明文 3学期「いいこといっぱい」書く</p> <p>【具体的な方策】 ①音読や漢字の指導に重点を置く。漢字は短文作りなどを通して、文章の中で使えるようにする。 ②話形などを示して、話すこと・聞くことの指導を充実させる。 ③ICTで挿絵提示したり、くじらニングの演習を個別に取り組ませたりする。 ④読み聞かせなどを行い、読書活動の充実を図る。 ⑤観察や経験したこと、感想など書く活動を日常的に取り入れる。 ⑥語彙を増やすために、ことわざの暗唱やカルタに取り組む。</p>		<p>【単元名】 1学期「あわせていくつふえるといくつ」 2学期「ひきざん」「たしざん」 3学期「たしざんとひきざん」</p> <p>【具体的な方策】 ①ICTを使って視覚的に分かりやすく提示する。 ②具体物や半具体物を使った操作活動を多く行い、反復練習することで計算力につなげる。 ③課題をもって自分で解き、発表し合う問題解決型の授業を行う。 ④ノートの書き方を手本を示して指導する。 ⑤授業開始時にマス計算に取り組む。 ⑥タブレットを活用し、くじらニングの演習を個別に取り組ませる。</p>	
2年	<p>【単元名】 1学期「スマイ」物語文 2学期「お手紙」物語文「馬のおもちゃの作り方」説明文 3学期「スーホーの白い馬」説明文 通年 漢字学習</p> <p>【具体的な方策】 ①時間的順序や、事柄の順序を表す言葉を見つけ、出来事の内容をつかめるようにする。 ②考えが伝わるように説明する順序を考えたり、感想を短い文で書いたりできるようにする。 ③日々の漢字学習の際に、漢字の成り立ちや意味を考え、学習した漢字を使った言葉集め、文作りを通して、語彙を増やす。 ④ICTを活用し、デジタル教科書を提示したり、くじらニングの演習を個別に取り組ませたりする。</p>		<p>【単元名】 1学期「たし算のひっ算」「ひき算のひっ算」 2学期「長方形と正方形」「かけ算」 3学期「4けたの数」「箱の形」「分数」</p> <p>【具体的な方策】 ①基礎基本の定着のために、毎日家庭学習の課題に出す。復習をしながら、繰り返し計算練習に取り組めるようにする。 ②図形や数量関係の領域では、30cmものさしや直角三角形などの具体物を使用する。またデジタル教科書を活用し、視覚的にイメージがしやすいうようにすることで理解を深める。 ③長さや箱の形など、日常生活との関連を示したり、実際に児童自ら測定する活動を多く取り入れる。 ④タブレットを活用し、くじらニングの演習を個別に取り組ませる。</p>	
	国語	社会	算数	理科
3年	<p>【単元名】 1学期「こまを楽しむ」説明文 2学期「ちいちゃんのかげおくり」物語文 3学期「モチモチの木」物語文</p> <p>【具体的な方策】 ①漢字については、家庭学習を活用し繰り返しの練習をする。 ②わからない言葉や自分で調べる習慣をつけるために、辞書引きの学習を継続する。 ③朝学習の時間をつけて、漢字の定着を図る。 ④読書の習慣については、図書室の時間、朝読書や週末の課題にして身に付けさせる。 ⑤ローマ字は、タブレットを活用し、通年で取り組む。 ⑥調べたことや自分の考え、感じたことを書く取り組みを継続的に行う。</p>	<p>【単元名】 1学期「わたしたちの昭島はっけん」 2学期「わたしたちのくらしとご」 3学期「くらしのうりかわり」</p> <p>【具体的な方策】 ①タブレットで撮影した写真を大型テレビ等で提示し視覚的な支援を行う。 ②地図記号の小テストやかるたを使って、定着を図る。 ③資料やグラフの読み取りを丁寧に指導する。 ④ノート指導の充実を図る。 ⑤調べ学習・見学を通して、分かった情報を選んだり整理したりしてまとめる力をつけていく。</p>	<p>【単元名】 1学期「あまりのあるわり算」 2学期「円と球」 3学期「三角形と角」</p> <p>【具体的な方策】 ①図や式や言葉で考えたことを表出させ、それらを説明させ、集団で学び合わせることで、表現の多様さや豊かな数量感覚を育てる。 ②半具体物やデジタル教科書、ICT機器を活用することで、視覚的に理解できるようにし、多様な数の見方や、図形への理解を高める。 ③生活と関連した問題場面を設定し、生活に生かそうという態度を育成する。 ④小数は0.1をもとにして計算するなど小数や分数の構成を理解させる。</p>	<p>・事象提示を工夫し、みんなで問題を作る基礎を育てていく。また、実験や観察の前に予想をたてるようにする。 ・実験の際には、子どもの予想したことができる限り確かめたり調べたりできるように教材を確保する。 ・教科書に沿った理科学習ノート・ワークシートを活用し、理科の学習の仕方や事象に対する理解を深める。 ・観察の時には、細かく調べられるように虫眼鏡などを使用させていく。また、温度計や方位磁針などは、一人一人が使えるように時間を確保する。 ・電気を通るものと磁石のつくもの、対比させながらまとめ、学習の定着をはかる。</p>
4年	<p>【単元名】 1学期「新聞をつくらう」書く 2学期「ごんぎつね」物語文 3学期「もしものときにそなえよう」書く</p> <p>【具体的な方策】 ①国語辞典を利用して、単元の初めに意味調べを行い、分かったことをノートに記録する。 ②物語文や説明文の読み取りを行った後、物語の登場人物に対して、または筆者の考えに対して自分の考えを書く機会を意図的に増やす。 ③学校図書館を活用したり、空いた時間に読書活動を行ったりして読書の機会を増やす。 ④漢字テストなどの学習活動を通して、単語ではなく文章を書かせることにより進出漢字や新しい言語の取得を目指す。 ⑤調べたことや分かったことを記録する経験を増やす。調べて分かったことを整理して自分で考えたことを伝えられるようにする。</p>	<p>【単元名】 1学期「安全な暮らし」「住みよいくらし」 2学期「郷土の発展につくす」 3学期「わたしたちの東京都」</p> <p>【具体的な方策】 ①都道府県について、年間を通してミニテストやドリルを用いて指導し覚えさせる。 ②学習する場所や施設について、タブレットを活用して調べたり、動画を見たりして分かったことを記録する活動を風増やす。 ③単元の学習課題を明らかにし、児童の問題意識を高めてから、インターネットや資料等から必要な記事やデータを収集させる。それを基にして、自分の言葉でまとめ、記録することができるようにする。 ④教科書の資料から分かったこと、授業のねらいと結び付けて考え、東京都に貢献してきた人々の思いや願いをノートにまとめている。</p>	<p>【単元名】 1学期「角の大きさ」 2学期「わり算のひっ算(2)」「倍の見方」 3学期「小数のかけ算とわり算」</p> <p>【具体的な方策】 ①定義や性質について、具体物やデジタル教科書を活用し、視覚的に理解させ、理解したことを言語化させる活動を繰り返し、図形や数量についての概念形成を図る。 ②学習したことを具体的な生活場面と関連させ、実感を持って理解させる。 ③課題を自力解決し、図や式や言葉で表出させ、集団で学び合わせることで、表現の多様さや思考力・判断力を育てる。 ④本時の課題、答えを出すまでの過程、答え、本時のまとめなど、毎時間ノートに書くことを繰り返すことにより、学習のより一層の定着を目指す。</p>	<p>・星座など学校で観察できないものは、各自の観察結果をみんなで確認し、全体で正しく理解させる。また、映像を活用し理解を深めさせる。 ・実験の技能として、理科実験ガスの正しい使い方を安全に行わせる。また、検流計の使い方、読み取り方も実験を通して、定着させる。 ・調べたことの問題を作り、予想・仮説を立てて問題解決することによる論理的思考力を養う。 ・問題解決の過程「予想、方法、実験、結果から分かること」をまとめる指導をしていく。 ・電気を通るものと磁石のつくものについては繰り返し、学習の定着を図る。 ・実験や観察などの体験をできるだけ一人一人ができるようにしたり、見えない結果や振り実験で可視化したりする工夫をして、実験結果や自分の考えを書きやすくする支援を行う。</p>
5年	<p>【単元名】 1学期「言葉の意味が分かること」説明文 2学期「グラフや表を用いて書く」書く 3学期「大造じいさんとガン」物語文</p> <p>【具体的な方策】 ①文章構成図を使って全体を一覧できたり、振り返ったときに学習内容が一目で分かるようにするノートの取り方を指導する。 ②国語辞典を利用して、言葉の意味の理解を深め、語彙を増やす指導をする。 ③物語文や説明文の読み取りを行った後、物語の登場人物の気持ちや、または筆者の考えに対して自分の考えを書く機会を増やす。 ④テーマに沿って自分の考えを書いたり、様々な文章を読んで自分の考えを書く活動をする。</p>	<p>【単元名】 1学期「日本の国土とわたしたちのくらし」 2学期「未来をつくり出す工業生産」 3学期「国土の自然ととくに生きる」</p> <p>【具体的な方策】 ①ICTや地球儀などの実物教材を活用し、イメージをもたせたり資料の比較が明確になったりするように、視覚的に分かりやすく提示する。 ②資料やグラフの読み取り方を丁寧に教え、問題解決の場面を多く取り入れる。 ③グループ学習を取り入れ、意見や考えを交流する場面を活かせるようにする。 ④授業で扱う地名等は、地図で確認し都道府県についても定期的に復習できるようにする。</p>	<p>【単元名】 1学期「合同な図形」 2学期「単位量当たりの大きさ」 3学期「割合」</p> <p>【具体的な方策】 ①デジタル教科書を活用し、視覚的に理解させ、理解したことを言語化させる活動を繰り返し、図形や数量についての概念形成を図る。 ②図や式や言葉で考えたことを表出させ、集団で学び合わせることで、表現の多様さや思考力を育てる。 ③乗法や除法の立式をしたり、式の意味を説明したりする際には数直線の図を活用させる。段階的に数直線のかき方・見方を身に付けさせる。 ④基本的な知識を繰り返し復習することで、定着させていく。</p>	<p>・メダカの誕生や天気の変化、人の誕生の単元では、一人一匹の稚魚を育て、理解を深めていく。卵の成長や雲の動きなどは、できるだけ子供に観察させ、絵や文などの方法で記録させる。 ・はかりやメス・リボン、顕微鏡を繰り返し使用し、全員が正確に使えるようにしていく。 ・導入に具体物を提示し、自然の事物や現象に目を向けさせ、クラスで条件を整理する時間を確保することで正しく実験が行えるようにさせる。 ・予想に理由をつけたり、結果から分かることを自分の言葉で書かせたりすることで、子供たちの科学的思考を高めていく。また、子供同士で考えを交流させていく。</p>
6年	<p>【単元名】 1学期「帰国語」読む 2学期「日本文化を発信しよう」書く 3学期「今、わたしは、ぼくは」話す聞く</p> <p>【具体的な方策】 ①国語辞典を常時使うようにし、言葉の意味についての理解を深め、語彙を増やす指導をする。 ②単元の始めの段階で、学習計画を立て、めあてと見通しをもって学習に取り組めるようにする。 ③文章の構成を考え、必要な情報を関連づけながら理由を明確にして書けるようにする。 ④友達と意見を交流することを通して、自分の考えと比較し、自分の考えを深めているようにする。</p>	<p>【単元名】 1学期「憲法とわたしたちの暮らし」 2学期「戦国の世から江戸の世へ」 3学期「平和や豊か暮らしを目指して」</p> <p>【具体的な方策】 ①憲法のものご政治の仕組みを理解し、自分たちも社会の一員であることを理解させる。 ②日本の歴史に貢献してきた人々の思いや願について複数の資料から読み取った事実を基に考える時間を確保する。 ③資料を比較したり、関連付けたりして共通点や相違点に気付かせ、思考力を高める。 ④毎時間、課題を明確にする。学習のまとめは単元の学習課題に対する自分の考えを書かせる。 ⑤ICT機器による資料や動画の提示により、想像させながら学習を進める。</p>	<p>【単元名】 1学期「比」 2学期「比例と反比例」 3学期「6年間の復習」</p> <p>【具体的な方策】 ①単元の導入部分で、前単元までに学習したことを振り返り、新たに学習する内容との違いに気付かせる。中学校で学習する内容につながるよう指導する。 ②デジタル教科書を活用し、視覚効果を生かして学習を進め、学習の終末に、適用問題に取り組ませる。 ③導入の視覚化を工夫し、問題場面を捉えやすくし、必要な情報を考えさせるようにする。</p>	<p>・体のはたらきでは、映像を活用すると共に、人体模型も合わせて見せていくことで、体の部分についての理解を深めさせていく。さらに臓器カードを使い、臓器の名前とはたらきを覚えさせる。 ・気体検知管や検流計については、正確に使えるようにさせる。既習の理科実験ガスの正しい使い方や安全な使用方法も振り返りながら安全に使うさせる。 ・水浴液では、危険な液体を調べていくときの注意点を子どもたち自身に考えさせることで、安全に活動することを意識させる。 ・要因や規則性、関係を探しながらグループ活動を通して問題解決学習を行わせる。特に、月の満ち欠けの学習では、観察、ボールでの実験、映像を掛け合わせながら学習させることで、考えを深めさせていく。</p>

★改善のポイントは各学年の年間計画・週案簿に朱書きし、授業改善を行う。